2025/02



MxNet2 サーバアプライアンス

RiBiG Inc.

https://www.ribig.co.jp/mxnet2

内容

1	電源投入前
1-1	LAN ケーブル接続
1-2	* 電源投入
2	電源投入後
2.1	IP アドレス確認 5
3.	Web 管理画面 5
3.1	管理画面1 - ホスト名 6
3.2	管理画面1 − IP アドレス
3.3	管理画面1 - タイムサーバ
3.4	管理画面1 - MxNet2 10
3.5	管理画面1-ファイヤーウォール 11
3.6	管理画面1 - ログ 14
3.7	~ 管理画面1 - ライブログ 18
3.8	5 管理画面1 - ログインパスワード変更 19 2

3.1 管理画面 1,2 -ログアウト 19
3.2 管理画面 2 − HTTPS 設定 20
3.2.1 機器 CA で署名 22
3.2.2 外部 CA で署名 22
3.3 管理画面 2 – ダウンロード24
3.4 管理画面 2 - ライセンス追加 24
3.5 管理画面 2 −再起動 25
3.6 管理画面 2 - USB キー設定 26
付録1. CA 証明書の"信頼されたルート証明機関"への登録方法28
FireFox(Windows/macOS/Linux)28
Windows(Edge/Chrome 等)28
macOS (Safari / Chrome)32
Linux (Chrome)
付録 2. WSL(Windows Subsystem for Linux)の Linux で rsyslog 受信35

1 電源投入前

機器には IP が事前には割り当てられていません。設置するネットワーク内の DHCP サー バによって割り当てられることを想定しています。また、IPv4 のみに対応します。 接続す る LAN で DCHP サーバが利用できることを確認してください。

1-1 LAN ケーブル接続

LAN ケーブルを機器に接続(無線接続不可)

1-2 電源投入

2 電源投入後

2.1 IP アドレス確認

DHCP サーバが割り当てた IP アドレスを確認します。 mDNS が有効な環境であ れば、同じ LAN(セグメント)上のコンピュータから機器既定のホスト名 (mxnet2.local) に ping することで確認できます。

>ping mxnet2.local

3. Web 管理画面

ブラウザで <u>http://(IP</u>アドレス) を開いてください。mDNS が有効な環境であれ ば 同じ LAN(セグメント)上のコンピュータから <u>http://mxnet2.local</u> でアクセ スできます。

ログイン画面

MxNet 2 管理

2-1	7名	
1625	2-14	
	ログイン	

ユーザ名: admin

初期パスワード: mxnet2

機器が起動すると、起動したことが永続ログに書き込まれます。このログに新規追加があるとログイン画面に警告が表示されます。初めての起動もログに記録されます。ログイン後に、「ログ」タブで機器最新ログをクリアすると、警告は表示されなくなります。

100

7-	世名	
100	9-F	
	1 42	

3.1 管理画面1 - ホスト名

ホスト名 IP	タイムサーバ	MxNet2	ファイアウォール	ログアウト	說明書	管理画面2	
				_			
			ホスト名			mxnet2.local)
					10	*	



3.2 管理画面1 - IP アドレス

tスト名 IP	タイムサーバ	MxNet2	ファイアウォール	ログアウト	説明書	管理西面2	
				IPROE		○手動 ※自動	
				₽₽ドレス	(1	92.168.2.23/24	
				масрких	20:	CF:67:3B:5B:9	D
				ゲートウエイ		192.168.2.252	\supset
				DNS	(1	192.168.2.252	

既定では DHCP 割当された IP/ゲートウエイ/DNS アドレスが表示されます。

mDNS が有効であれば、IP アドレスが変わっても同じセグメント内のコンピュー タからはホスト名でアクセスできます。その他のケースでは、サーバの IP アドレス が変更されてしまうとクライアントからアクセスできなくなります。

次のどちらかの方法で IP を固定化するように設定してください。

- 指定 MAC に対して同一 IP を割り当てるよう DHCP サーバを設定
- 機器に固定 IP を設定

IP タブで設定を「自動」から「手動」に変更すると手動で機器 IP を設定できるよう になります。手動を選択して IP アドレス、ゲートウエイ、DNS アドレス設定してく ださい。IP は DHCP サーバの IP 割り当て範囲外のアドレスを設定してくださ い。

現在の IP とは別の IP に変更すると、機器は新しい IP に切り替わるため、管理 画面は応答を受け取ることができません。 設定状態が継続したままになりますの で、[ログアウト]ボタンでいったんログアウトしてから、変更後の IP アドレスでロ グインしなおしてください。



mDNS が有効な場合、変更後の IP アドレスとホスト名を対応させるには、ブラウ ザを再起動しなければなりません。

IP 変更後は、MxNet2 API クライアントが変更後の IP アドレスを使うように再設定する必要があります。

ゲートウエイ/DNS アドレスを空にすると機器はインターネット接続できないよう になります。

3.3 管理画面1 - タイムサーバ

現在自動	
Fri 2025-02-21 11:29:2	27 JST
次の時間を指定して手動に	
(yyyy/mm/dd:	
タイムゾーン Asia/Tokyo	v
タイムサーバ O.debian.pool.ntp.c	org

MxNet2 サーバはクライアントコマンドの発行時間を確認します。クライアントの コマンド発行時間と、サーバが受け取った時間に一定の差以上があると、コマンド を拒否します。(既定設定では)サーバ側とクライアント側のクロックが同期してい ないと、サーバはコマンドを受け付けることができません

機器クロックは、既定ではインターネット上のタイムサーバと同期するようになって います。このままではインターネット接続できないと機器には正確な時間が設定さ れません。LAN 上にタイムサーバがあれば、そのサーバのアドレスを指定してくだ さい。

> クライアント Windows OS にもタイムサーバ機能が搭載されています。 既定では無効化されています。もし、タイムサーバ機能を有効するのであ れば、そのコンピュータ自身のクロックがインターネットのタイムサーバな どと同期するなどして正確であることを確認してください)

日時を入力して手動設定することも可能です。コンピュータが動作するために必要なクロック信号で時間が刻まれます。機器の再起動後、時間が正確でなくなったとき等、再設定する必要があります。

MxNet2 設定にクライアントコマンドの発行時間を確認しないというオプションが あります。同一 LAN 内で不正なコマンドを投げられる心配がなければ、このオプ ションを有効にすることで時間の問題は解決します。

			π− ►	0	12300 छ	
			ライセンス		session ~	
		teys	·=>915	701	300 10	
		07	インタイムア	101	970 e	
		vo	12.1.000	**	tatu +	
		3 0	クエスト間	n (60 łł	
		設定ボタンを	押すとmanet	29-X (Y	フト〉が再起数	i Gart
				R E		

3.4 管理画面1 - MxNet2

MxNet2 の設定を行います。各設定値については、mxnet2.ini 設定ファイル に関する MxNet2 マニュアル記載内容を参照してください。

3.5 管理画面1 - ファイヤーウォール

21-8	P	9444-11	MeNet2	77-1707-1	09701	副装置	THER?	
				_				
			ステータ	2				
								60 C
					ste			1
								NET
			272	Kara			(5—1-273) alice	bort
		12	274798-	-Ab effects		#-F/20	1-3/14792 allow	Basel (Baseland)
						100-	メート許利: alow ボート許利: alow	from IPI to any port logit!
						1.2001-0	石- ト例除: deleta	allow (port)
						ホートノウロ	HILLING: delete	allow [port]/[protoco]
						IP/	- I- MRA: deleta	allow from (ip) to any port (port)

[取得]ボタンで現在のファイヤーウォール設定を取得できます。

Status: active			4
То	Action	From	
12300	ALLOW	Anywhere	
22 80	ALLOW	Anywhere	l l
443 5353/udp	ALLOW	Anywhere Anywhere	
3449	ALLOW	Anywhere	

既定では5つのポート(22,12300,80,5353/udp,3449)が開いています。

22=ssh, 12300=mxnet2, 80=http, 5353/udp=mDNS、

3449(ライブログ用ポート)

ポート 443 は https 接続を有効にすると解放されます

発行	
2013	

ファイヤーウォールは、ufw コマンド(Linux のファイアウォールを設定するコマンド)を指 定して設定します。

ポート22(SSH)は不要なので閉じてください。

delete allow 22 を入力して [発行]ボタン

ポート80(管理画面へのアクセス)は特定 IP からのみアクセスを許可。どこからでもアクセス(Anywhere)は閉じてください。

allow from IP アドレス to any port 80 を入力して [発行]

allow from IP アドレス 1 to any port 80 を入力して [発行] ...

delete allow 80 を入力して [発行]

*ポート80の操作は慎重に行ってください。 設定を誤ると管理画面に アクセスできなくなります。

- 1. allow from IP アドレス 1 to any port 80 で指定した IP アドレスのコ ンピュータからアクセスできることを確認する
- 2. delete allow 80 は他のルールでポート80にアクセスきることを 確認できるまで発行しない

例えば、allow from IP アドレス to any port 80 で誤った IP アドレスを指定、その アドレスからアクセスできることを確認しないまま、 delete allow 80 を発行すると、 管理画面にアクセスできなくなります

ポート80、22を開く緊急手順:

USB キーを 20 秒~50秒の間隔で3度抜き取ると、機器側でポート80、22を開 くコマンドが発行されます。 最初の抜き取りもカウントされます。最初の抜き取り時間か ら20秒以上、50秒以内の間に2度目の抜き取り、さらに、20秒以上、50秒以内の間に3 度目の抜き取りを行います。

3.6 管理画面1 - ログ

ホスト名	IP	ダイムサーバ	MxNet2	ファイアウォール	07	バスワード変更	管理调查2			F
						1. 2025 03:03 15:08:07	nonet2 machin	e STARTED		
										<u>Hanad</u>
					2	5508452F73	s ≿∎800i⊡:2500 mm/dd:	(1965)		
					3	(18 4) (9999/	mn/dd:	Ð		
						69				
					UE-F	0t-F09)n	na or nor nor nor processor nor nor generation of generation of generation of generation of the generation of the genera	ort(UDP) port (TCP) 514		
						-				

機器設定に関するログと、MxNet2 サーバへのクライアントからのアクセスに関するログを取得できます。

■ 機器設定に関するログは永続します

MxNet2 サーバへのアクセスログは永続しません。機器をリブート、シャットダウンするとログは削除されます。取得可能なログは最後に起動した時点からのものになります。

機器設定に関するログには機器の起動、操作によるシャットダウン、USBキー抜き 差しによるポート開放、管理画面の設定操作が含まれます。起動、シャットダウン、 強制ポート開放は、管理画面の操作をしなくても発生するため、ログイン画面に警 告が表示されます。 警告は [クリア]ボタンで表示されなくなります。

「機器ログ」リンクをクリックすると、機器ログを表示できます。

MxNet2サーバへのアクセスログは、期間を指定して[ログ取得]ボタンをクリック すると、機器側でログ収集処理が開始します。

自(日時)	yyyy/m/dd:- 🗵
至(日時)	yyyy/mi/dd:- 🖻

ログ収集の処理開始の通知が表示され、[ダウンロード]ボタンが表示されます。ただし、この時点ではログ収集処理が完了していないかもしれません。

▲要史 タワンロード	HTTPS-膜淀	ライセンス追加	USBキー設定	常建画面1	
	and the state of t	State of Fillin	u aa ceniihu	naganapat	
-					

自(日時)	yyyy/mm/dd: 🗐
至(日時)	уууу/mm/dd: 🗊

指定期間のログの量が少ないと機器側でのログ収集処理はすぐに終了しますが、 多いと時間がかかります。[ダウンロード]ボタンをクリックした時点で収集処理が 完了していれば、ログがダウンロードします。完了していなければ、まだ準備ができ ていないというメッセージが表示されます。

サーバ側でログ収集過程で並び替え等の処理を行います。このため、取得したログ で日時が同じ場合、実際のログの行並びとは異なります

リモートログ(リアルタイムログ監視)

リモートログサーバにログを送り、そのサーバ側で Mxnet2 関連ログを監視する ことで、ログをリアルタイム(時間ラグはあります)で見ることができます。リモート ログサーバの IP アドレスを指定するとログを送信するようになります。既定ポー ト(514)以外のポートを使うには、アドレスに続けて :port を追加します(例 @@192.168.0.100:5000)



また、リモートログサーバ側で rsyslog 設定を行ってリモートログを受け付ける ようにしてください。

受信側の設定例:

/etc/rsyslog.d ディレクトリに以下内容を記述した mxnet2.conf を作成 後、rsyslog の起動/再起動 systemctl restart rsyslog

TCP ポート 514 でログを受信、ファイル /var/log/remote/{機器ホスト 名}/mxnet2.log に機器から送られてくるログを書き込みます。リモートログサ ーバのファイヤーウォールで TCP ポート(ここでは 514) を開いてください

Template(name="TmplMxNet2" type="list") {

constant(value="/var/log/remote/")

property(name="hostname")

constant(value="/mxnet2.log")

```
}
```

module(load="imtcp")

ruleset(name="remote1"){

. action(type="omfile" DynaFile="TmplMxNet2")

}

input(type="imtcp" port="514" ruleset="remote1")

/var/log/remote/{機器ホスト名}/mxnet2.log を監視

tail -n 30 -F /var/log/remote/{機器ホスト名}/mxnet2.log (ファイルの最新50行を表示)

rsyslog で受信側は、Windows の wsl(Windows Subsystem for Linux)のLinuxを使うこともできます(付録2参照)

3.7 管理画面1 - ライブログ

 4.9 00 11:25:04 menet2 local manet2[66018]: [55:8] API Dongin_Gaunt from manet2.local 4.9 00 11:25:04 menet2 local manet2[66018]: [55:8] API Dongin_Gaunt from manet2.local fime elapsed: 00:00:00 4.9 00 11:25:04 menet2 local manet2[66018]: [55:8] API Dongin_Gaunt from manet2.local fime elapsed: 00:00:00 4.9 00 11:25:04 menet2 local manet2[66018]: [55:8] API Dongin_Gaunt from manet2.local fime elapsed: 00:00:00 4.9 00 11:25:04 menet2 local manet2[66018]: [55:8] API Dongin_Gaunt from manet2.local fime elapsed: 00:00:00 4.9 00 11:25:04 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local fime elapsed: 00:00:00 4.9 00 11:25:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Belease_MatrixAPI from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 00 11:27:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 00 11:28:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 00 11:28:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 08 11:28:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 08 11:28:05 menet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 08 11:28:05 manet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.local 4.9 08 11:28:05 manet2 local manet2[66018]: [55:01 API Bongle.Count from manet2.lo	停止
 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Grangle Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Grangle Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11125:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11225:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11225:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11225:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11225:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11225:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [5513] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [551] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [551] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [551] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [551] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [551] API Court from momet2 local 4.9 00 11227:00 mmret2 local momet2[96018]; [551] API Release.MatrixAPI from momet2 local 4.9 08 11-28:00 mmret2 local momet2[96018]; [5521] API Release.MatrixAPI from m	
47 00 11:30:04 mmer22 isoal momet2[06018] [2519] API Init_BitTiAVPI from momet2 isoal time elapsed: 00:00:00 47 00 11:30:04 mmer22 isoal momet2[06018] [2519] API Init_BitTiAVPI from momet2 isoal Time elapsed: 00:00:00 47 00 11:30:04 mmer22 isoal momet2[06018] [2519] API Init_BitTiAVPI from momet2 isoal Time elapsed: 00:00:00 47 00 11:30:04 mmer22 isoal momet2[06018] [05010 47 00 11:30:04 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Init_BitTiAVPI from momet2[0601] [0501 47 00 11:30:04 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Init_BitTiAVPI from momet2[0601] [0501 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmer22 isoal momet2[06018] [0502] API Release_MatriavPI from momet2[0601] [0601 47 00 11:30:06 mmet2[06018] [060	
4.9 001 11:28:00 numeril local manet2[00210]: [2539] AVI Refease.Mart LaNP (rem market2.local Time sisped: 00:00:00 44 001 11:28:04 numeril local manet2[00210] sensionTimeput handler over in starting (sensionTimeput handler over 49 001 11:27:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Dangle.Sourt from moret2.local 4.9 001 11:27:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Dangle.Sourt from moret2.local 4.9 001 11:27:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Dangle.Sourt from moret2.local 4.9 001 11:27:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Dangle.Sourt from moret2.local 4.9 001 11:27:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 001 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 001 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 001 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 001 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 001 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 001 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart LaNP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 numeril local manet2[00210]: [5520] AVI Belease.Mart [ANP (rom moret2.local 100:00:00 449 000 11:28:05 nume	
491 00 11:27:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Dirit_MatrixAPI from munetz, losal 491 08 11:27:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Dongle_Sourt from munetz, losal 491 08 11:27:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Belesee_MatrixAPI from munetz, losal Time elapsed: 00:00:00 491 08 11:28:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Dirit.MatrixAPI from munetz, losal 491 08 11:28:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Dirit.MatrixAPI from munetz, losal 491 08 11:28:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Belesee_MatrixAPI from munetz, losal 491 08 11:28:05 mmeriz, lossi munetz[99218]: 15321 API Belesee_MatrixAPI from munetz, losal Time elapsed: 00:00:00	
491 08 11:22:05 mmetzi looji mmetzi5082181: 155201 API Beleose MarrisAPI from moretziooli Time elapsed: 00:00:00 491 08 11:28:05 mmetzi looji mmetzi5082181: 15521 API Beleose MarrisAPI from moretzi looji 491 08 11:28:05 mmetzi looji mmetzi5082181: 155211 API Bengle.Sourt from moretzi looji 491 08 11:28:05 mmetzi looji mmetzi5082181: 155211 API Beleose MatrisAPI from moretzi looji Time elapsed: 00:00:00 491 08 11:28:05 mmetzi looji mmetzi5082181: 155211 API Beleose MatrisAPI from moretzi looji Time elapsed: 00:00:00	
4/1 08 11:28:06 mmret2.logal manet21992181: 155211 AP1 Bongle_Sourt from momet2.logal 4/1 08 11:28:06 mmret2.logal manet21992181: 155211 AP1 Release_MatriaAP1 from momet2.logal Time elapsed: 00:00:00	

「ライブログ」タブを選択すると、機器側のログ監視の出力をブラウザで表示します。リアル タイムログは、クライアントがサーバに接続できない原因を調べるのに便利です。

リモートログでもリアルタイムでログ監視することができますが、リモートサーバのセットア ップが必要です。ライブログは、タブを選択するだけでリアルタイムにログを表示できま す。ただし、リモートログのようにログを保存することはできません。

別のタブを選択すると接続は切断します。

重要

管理ページに http/https で接続しているかどうかに関わらず、ライブログは必ず TLS 接続をします。管理画面に問題なく https で管理ページに接続できなければ、ライ ブログ表示はできません。サーバ証明書を発行した認証局(CA)証明書がルート証明機関 に登録されていることを確認してください。

- 1. 管理ページに http で接続していてもライブログは TLS 接続になります。
- 2. CA 証明書が登録されていなければ、このタブを選択するとログアウトします。

3.8 管理画面1 - ログインパスワード変更

9	パスワード変更	ダウンロード	HTTPS設定	ライセンス追加	USB年一設定	管理画面1	
				兩石	主のバスワード		
					<i>新</i> (スワード		
				96.7	(スワード確認		
						RE	

管理画面のログインパスワードを変更できます。

3.1 管理画面 1,2 - ログアウト



画面、上部右のログアウトボタンでログアウトできます。

3.2 管理画面 2 -HTTPS 設定

HTTPSIBLE	ダウンロード	アップデート	再起的	ライセンス追加	U\$8‡-B&	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
				HTTPS MIS		氟効	
				BBEA	Con	Allet mmon Name-既定は木ス) CALEWIT bit	
				外鄉 CA	сили (कराह (त)	サーバ運用書 をごこにドロップ 32はファイル課題	

管理画面に HTTPS アクセスできるように設定できます。有効化すると現在の機器ホスト名、又は、IP アドレスで HTTPS 接続できるようになります。有効化する際、コモンネームにセットされる任意のホスト名を指定できます。

[有効化]ボタンで有効化した直後、ログアウトします。この時点では機器 CA の証明書がルート証明機関に登録されていません。このため HTTPS でログインしようとすると警告が表示されます(3.2.1 機器 CA で署名を参照)。

サーバ証明書を発行した CA の証明書がルート証明機関に登録された状態になる と警告は表示されなくなります。 <u>https://ホスト名</u> (mDNS が有効化か DNS でホスト名設定済みの場合)

	α	Q A March	read local it	ust kips		-	
07	/0.9-FRR	99>0-1	HTTPSZE	タイセンス追加	US##192	-	
							-
							CARRYSINE .
				NITTPS REM	有効		HING:
					-		
						RA	
				CA		Cardina Trans	
						CALIF. SHE	-

https://IP アドレス

-			194.108.2.2017.111	nerfounder .			
19	パスワード変更	ダウンロード	HTTPSIRSE	ライセンス追加	USB本一設定	管理直面1	
				2			
						1	
				10000000000000000000000000000000000000		9-1	ALMAN DE M
				HTTPS 408	有効		NAME:
						_	
						92.81	
				CA			
						CALERIZORS	

3.2.1 機器 CA で署名

HTTPS のサーバ証明書は機器内の自己署名 CA によって署名されます。この CA 証明 書をブラウザを実行するコンピュータの"信頼されたルート証明機関"に登録しないと、 CA によって署名されたサーバ証明は不正なものとして扱われてしまいます。



CA 証明書をダウンロートして、"信頼されたルート証明機関"に登録すると警告は解決します。

+	6	0.4 mm	next land 1	and the second		2	\$:0 (8)
119	パスワード東美	#9>0-F	HITTHREE	9482288	USS\$-800	-	TANK AND A	Ċ.
							PCIOTOD-HEREININ	

"信頼されたルート証明機関"への登録方法は付録1を参照してください。

3.2.2 外部 CA で署名

外部 CA でサーバ証明書を署名することもできます。既にルート証明機関に登録されている CA で署名可能であれば、こちらの方法を推奨します。

1. CSR をダウンロード

2. ダウンロードした CSR を外部 CA で署名

3. 署名されたサーバ証明書を機器にインポート

インポートした時点で、そのサーバ証明書で HTTPS は有効になります。 CSR 作成時、 コモンネーム(CN)に設定されるホスト名を指定できます(既定 CN は現在のホスト名に なります)

3.3 管理画面 2 - ダウンロード

HTTPSRE	99>0-1*	アップデート	用起来	ライセンス追加	US8中-設定	20081	
			- 1	McNet277543	アンス説明書	@9>D=F	
				MoNet2サール	は明古	975/D=P	
				テストプロ	グラム	#3>0-F	
				クライアン	IF API	(97)>D-F	

説明書、テストプログラム、クライアント API をダウンロードできます。

3.4 管理画面 2 - ライセンス追加

62	バスワード安美	90>0-K	HTTPSikke	94122288	USD-F-2018	12 (2 (2 (1) (1) (2 (1) (2 (1) (1) (2 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	
				現在の最大ライ	イセンス酸	275	
				チケット	#9 C		
					インターネット	国際が必要です	
					7	•	

Mxnet2 が管理する最大ライセンス数を変更できます。

追加ライセンスを購入すると発行されるチケット番号を入力して、[了解]ボタンを クリックするとインターネット経由で情報を取得して、ライセンスをプラス、マイナス 追加します。

3.5 管理画面 2 - 再起動

HTTPS和主	99>0-F	アップデート	AEB	ライセンス組織	USB#—182	管理画面 1	
						_	
							5791605

機器の再起動とシャットダウンを行えます。

3.6 管理画面 2 - USB キー設定

07	パスワード変更	ダウンロード	нттрs設定	ライセンス追加	USB#BRE	管理面面1	
				,			
					メモリフィールド	(AppSlot)設定	
			1:			9:(
			2			10:	
			3:			n:(
			4			12	
			5			13:	
			6			14:	
			7:			IS:	
			8	:[]		16:	
					REAL	ALL A	
					暗号目	線定	
				鍵	в .		
				翻	2:		
				88			
				at-	к. <u> </u>		
					_	_	
						Δ	

機器に接続されている USB キーのスロット(フィールド)と暗号鍵を設定します。

各スロットに設定された値が最大ライセンス数になります。あるプログラムが同時に10個 まで起動できるようにしたい場合、スロットに 10 を設定します。そのプログラムが起動 時にスロット5からライセンスを取得すると、ライセンスは1つずつ減少、10個起動すると、 ライセンス切れになり、以降起動しないようにします。

各スロット値の合計が、"ライセンス追加"タブに表示される最大ライセンス数になるまでス ロット値は有効です。例えば、最大ライセンス数30で、スロット1=10, スロット2=10, スロット3=10 と設定すると、3つのプログラムそれぞれ10個同時起動させることができます。

スロット1=7, スロット2=5, スロット3=5, スロット4=5、スロット5=3

...

もし、スロット値合計が最大ライセンス数30を超えるような設定を行っても、合計30を超 えるライセンスは取得できません。

スロット1=10, スロット2=10, スロット3=20

USBキーは暗号鍵でクライアントから送られてきたデータを暗号、復号します。データがU SBキーに送られて、キー内部で暗号、復号処理が行われて結果が返されます。この処理は 高速ではないため、多数のクライアントが同時に暗号化、復号化の要求を出すと、非常に 効率が悪い状態になります。この点に留意して暗号化機能は利用する必要があります。

付録1. CA 証明書の"信頼されたルート証明機関"への登録 方法

FireFox(Windows/macOS/Linux)

独自の証明書ストアを持っています。

設定―プライバシーとセキュリティー証明書を表示 で認証局証明書に CA 証明書(ファイル名 mxnet2-ca.crt)を "ウェッブサイトの識別を信頼する"にチェックをつけてインポートします。

Windows(Edge/Chrome 等)

ダウンロードした CA 証明書(ファイル名 mxnet2-ca.crt)をダブルクリック。



[証明書のインストール]をクリック

臣明書のインボートウィサ	「-Fの開始
(かつくボードでは、延明者、延明 (ます。	會議費103ト、あよび証明書大加りストモディスクから証明書ストアに38
ERMM時によって第1行された原始 ERLEネットワーク接続を通用する L上の構成です。	博は、ユーデー印 王曜間し、デーダ王原課したり、またはセキュリティで使用 ための事業を告んでいます。証明書ストアス、証明書が研想されないスク
音符場所	
0 8803-5-10	
08-843261-9-00	
ま行するには、(ボハ)をクジックレ	TCERD.

"現在のユーザ"を選択して次へ(ログインしているユーザのみに対して CA 証明書は有 効になります)

2A(N) 44925

-	ê.				
証明会ストプロ、証明会が保障されキシスケム上の確認です。					
Worksons に延続巻ストアを含動的に進行させるか、証明書の場所を施定することができます。					
	記録寺の登場に登け	UT. BRITCH	●ストアを運行する(1)		
0	· 股份會生产人でスロン	() 7に記営す3(9)			
	最終面1175			104	-
					- Pill-

"証明書をすべて次のストアに配置する"を選択。[参照]ボタンをクリックして"信頼された ルート証明機関"を選択して [OK]

		1.たルート証明機関 プライズの信頼 明機関 1.た発行元 1.ていない証明書 (ーディルート証明機関	I	
	()物理ストアを書	1日示する(5)		
		OK	キャンセル	
29e	012#-10r#-F			
299 298 298 298 298	ロインボート ウィボード 9 目音 22 72、 征見書が将る	85わるリスチム上の編成です。		
298 298 29 29 29	ロインボート ウィブード y R書 25 72、 花咲春水 丹雪 sdows に花咲春 31 7代春月	さわなッスチム上の模倣です。 動的に編成させなか、従物書の	編刊を描述することができ	£7.
24e	012년-1 01년-5 9 1월2272 - 문덕동산동물 down 仁臣덕동227년8년	をわなりスチム上の場所です。 動的に編がおせなか、短時巻の て、自動的に空間巻入と7を重	場所を指定することができ 行する)//	£T.
1241e 244 254 254 254	012년-10년-5 9 18월2572, 왕학동산주문 이 문학동리동목(-동년) 이 문학동리동목(-동년)	をわなっステムとの場所です。 動的に選択させなが、証明者の て、自動的に証明者よりでも載 7に記載する(P)	編研を加定することがです。 時する100	£T.
24e	012ボートウィボード y BB2とかえ、在日本が存在 downに正明者ストがを計) 在明春の意味に至うい 0 日明春ですべてのスト 日明者ストス	さわカッスチムとの場所です。 動的に選択させなが、証明者の て、自動的に空明者3トアを選 7に記憶すの(P)	編刊を加えまな」とかです。 所する())	ġŦ.

2000	キャンセル

[次へ]をクリック

証明書のインボートウィザ	-ドの完了	
完了」をクリックすると、証明者が	インボートされます。	
次の設定が確定されました		
ユーザーが選択した証明書ストア	信頼されたルート証明機関 応知由	
116	54,77 W	

 \mathbf{r}_{i}

÷

売了(F) キャンセル

×

[完了]をクリック。数秒後、確認ウィンドウが表示されたら[はい]をクリック



証明書ストアの"信頼されたルート証明機関"に "MxNet2ApplianceCA" が登録されます。

🗭 🔿 📶 🔏 🐂 🗶 🛙	S 🕞 🖬 💷	
 田中唐 - 現在のユーザー 様人 信頼されたルート証明機関 証疑問題 証疑問題 エンタープライズの信頼 中間証明機関 中間証明機関 	発行先	発行者
	MuNet2Appliance CA	MaNet2Appliance CA
		and strength the strength of the

macOS (Safari / Chrome)

ダウンロードした CA 証明書(ファイル名 mxnet2-ca.crt)をダブルクリック。

"キーチェーンアクセス"が自動起動、MxNet2Appliance CA が(おそらく)システムキ ーチェーンの"システム"に入ります。



右クリックして "情報を見る" を選択

	キーチェーンアクセス			
17431-9-9y	******** H27-#			
₫ 0745 © Cost ₫ 9374 © 53744->				
	Circle correct applies (authorities india)			
	10 (b) 新聞目前表プリファレンス。			
	MaNet2Applance CA 8 312- *MaNet2Applance CA* 8 800			
	*MeNet2Appliance CAT 电器自出平二			
	情報を起る "MaNet2Applance CA" 在評価			

>信頼を開いて、"この証明書を使用するとき"を"常に信頼"に変更

	MxNet2Applia	nce CA	
KxNet2Applian ルート説証例 WSNEW: 2035年2月 O このルート記形開始	ce CA 22日 木曜日 22前 2 日 木曜日 22前 2 日 本曜日 22前	44分D6秒 E	日本標準約
· 98			
この証明書を使用するとき	N <0.00	8	?
SSL (Secure Sockets Layer)	REAM	8	
安全なメール (S/MIME)	営に信用	8	
私期期臣 (EAP)	現実情報	8	
IP Security (IPsec)	東に保護	8	
コード編名	用二位数	8	
タイムスタンプ	常に信頼	8	
X.509 基本ポリシー	111.08	8	
- 詳細な情報			
サブジェクト名			
遷称 MsNet2App	llance CA		
国家九雄地域 2P			
all the start of the start of the start of the			

ウィンドウを閉じると、MxNet2Appliance CA が信頼された状態になります。



Linux (Chrome)

FireFox と同じように独自の証明書ストアをもっています。

設定―プライバシーとセキュリティーセキュリティー証明書の管理 で認証局に CA 証明 書(ファイル名 mxnet2-ca.crt)を "ウェッブサイトの識別でこの証明書を信頼します" にチェックをつけてインポートします。

付録 2. WSL(Windows Subsystem for Linux)の Linux で rsyslog 受信

WSLのLinuxは、外部端末から直接アクセスできません。Windowsホストにデータを送信、WindowsでLinuxにポート転送しなければなりません。



ポート514転送例:

- 1. リモートログサーバのアドレスとして Windows ホストの IP アドレスを設定
- 2. Windows から Linux ヘポート転送(Windows のターミナルで)

netsh interface portproxy add v4tov4

listenaddress=*

listenport=514

connectaddress=172.27.246.3

connectport=514

3. Windows のファイアウォールでポート(514)をオープン

4. Linux のファイアウォールでポート(514)をオープン

WSL の Linux のアドレスは シャットダウンすると変わります(ポート転送の設定 を更新する必要があります)

ポート転送設定表示(Windowsのターミナルで)

netsh interface portproxy show all

ポート転送削除(Windowsのターミナルで)

netsh interface portproxy delete v4tov4 listenport=514 listenaddress=*